

# 発掘調査でわかった坂本古墳群 (解説シート 2)

## 1. 発掘調査

明和町は平成7～9年度に坂本古墳群の本格的な発掘調査を実施しました。調査の結果、古墳はすべて壊されずに残されており、1号墳は「前方後方墳」、2・3号墳は「方墳」という形でした。また、古墳は同じ方向に一列に規則正しく並んでいました。これにより、地元で「坂本百八塚」と呼ばれた古墳群の姿が明らかになってきました。

<1号墳> 全長：31.2m、前方部長：11.0m、前方部高 2.6m、後方部長 20.2m、後方部高 4.6m

1号墳は7世紀前半に造られ、葬られた人物は「割竹形木棺」という、丸太を縦にふたつ割りにして、中をくり抜いて作った身と蓋を合わせた、長大な円筒形の木棺に入れられていました。これは、当時としては全国的に珍しい方法でした。

さらに、注目すべき点は、棺から見つかった「金銅装頭椎大刀」と「古墳の形」です。

①金銅装頭椎大刀の出土は県内では初めてで、東海地方でも発見数は少ないことから、葬られた人物は当時貴重だった刀を入手できる大きな力を持っていたといえます。

②「前方後方墳」という形は、古墳時代でも前期（4世紀代）に東海地方や東日本を中心に造られますが、しだいに「前方後円墳」が多くなります。出雲地方や関東地方では6世紀まで「前方後方墳」を築きますが、前期に比べると数はごく少数です。1号墳が造られた時期は7世紀前半と、さらに後の時代です。したがって、全国で最後の「前方後方墳」といえます。



1号墳完掘状況



2号墳出土 耳環

### <2号墳>

東西長 13m、南北長 13m、高さ 2.3m

出土した土器の分析から、7世紀前半に造られた「方墳」で、棺内からは「耳環」と呼ばれる、銅に金メッキを施したイヤリングが2点発見されています。



2号墳完掘状況



3号墳完掘状況

### <3号墳>

南北長 12.8m、東西長 11.4m、高さ 1.5m

1・2号墳と同様に7世紀前半に造られた「方墳」です。棺の中からは全長52.8cmの鉄でできた刀が出土しました。



3号墳出土 鉄刀



県指定史跡坂本古墳群 全景（南より）

## 2. 県指定史跡

発掘調査の結果、坂本古墳群は、明和町を<sup>きぼん</sup>基盤に勢力をもった<sup>ごうぞく</sup>地方豪族のお墓が長らく築かれた三重県を代表する大規模な古墳群であるとして、未調査の残り3基を含む範囲が、平成16年1月19日に県の史跡指定を受けました。



坂本古墳群周辺航空写真（南東より）

## 3. 最後の前方後方墳

古墳には丸と四角を組み合わせた「前方後円墳」、四角と四角の「前方後方墳」、円形の「円墳」、四角形の「方墳」などがあります。さまざまな古墳の形や大きさは、葬られた人物が所属していた集団の特徴や地域における力の強さを表していると考えられます。つまり、「前方後方墳」という形を使わなくなった7世紀の頃に、あえてこの形を選んだことには意味があったといえます。

方墳	円墳	前方後方墳	前方後円墳	かたち
				かたち
ほうふん 方墳	えんぶん 円墳	ぜんぽうこうほうふん 前方後方墳	ぜんぽうこうえんぶん 前方後円墳	なまえ
2,000	230,000	500	7,000	数(基)
90	105	183	486	最大直径の 大きさ(m)

  

じょうえんかほうふん 上円下方墳	はっかくぶん 八角墳	そうほうちゅうえんぶん 双方中円墳	ほたてひらいたてぶん 帆立貝形古墳

さまざまな古墳のかたち

※安城市教育委員会発行『知りたい！姫小川古墳』より一部改変

## 4. 齋宮との関り

坂本1号墳を「造られた時期」・「位置」・「金銅装頭椎大刀」の三つのキーワードを、国指定史跡齋宮跡との関係を考えてみましょう。

1号墳は齋王制度が成立（西暦674年）の数十年前に造られ、齋宮から約1kmと近い距離で所在し、なおかつ出土した金銅装頭椎大刀は大和朝廷から与えられた刀で、墓の主との関係を物語っています。

以上のことから、1号墳に葬られた人物は、齋宮の成立に関与した可能性があり、明和町に齋宮が造られるきっかけになったといえるかもしれません。

今後のさらなる発掘調査によって、お墓の主がどんな人物であったか判明することが期待されます。